

校長 田邊 道行

5月24日（土）、に開催された令和7年度体育祭には、多くの皆様からご来場いただき、子どもたちの頑張りを温かく見守っていただきました。心より感謝申し上げます。

赤軍と白軍に分かれ、仲間と力を合わせて競い合った子どもたちの姿には、勝敗以上に、互いを思いやる心や努力を支え合う姿勢があふれていました。体育祭を通して、子どもたちは「一緒に頑張ることの喜び」や「誰かのために動く勇氣」を学んでいたように思います。

2日間の休みをはさんだ5月27日の朝、全校集会で私は子どもたちに次のように話しました。

おはようございます。

先週の土曜日に行われた体育祭では、「勝利の風を巻き起こせ！2025 体育祭！」をスローガンに、赤軍も白軍も、一人一人が全力で走り、声を出し、力を合わせて頑張っていました。応援してくださった保護者や地域の皆さんも、その姿に胸を熱くされたことでしょう。閉会式では、優勝して喜ぶ赤軍と、悔しさをにじませる白軍の姿が見られました。ただ、応援賞をとった白軍の応援は、息の合った一体感があり、本当に素晴らしかったです。

開会式で、私は次のように話しました。

「勝つことだけが全てではありませんが、一人一人が全力を出し切り、仲間と心を合わせて、最後まであきらめずに取り組むことで、きっと心の中に“勝利の風”が吹くはずです。」

覚えていますか。今日は、この「勝つことだけが全てではない」ということについて、2つの実話を紹介します。

リオ五輪に見た“助け合い”の姿

一つ目は、2016年リオデジャネイロオリンピック、女子5000メートル走予選での出来事です。

ニュージーランドのニッキー・ハンブリン選手が、レース中に転んでしまいました。

そのすぐ後ろを走っていたアメリカのアビー・ダゴスティノ選手も、ニッキー選手を避けきれずに巻き込まれて一緒に転んでしまいます。世界中が注目するオリンピックの舞台でのことです。

アビー選手は、倒れたニッキー選手に手を差し伸べて、こう声を掛けました。

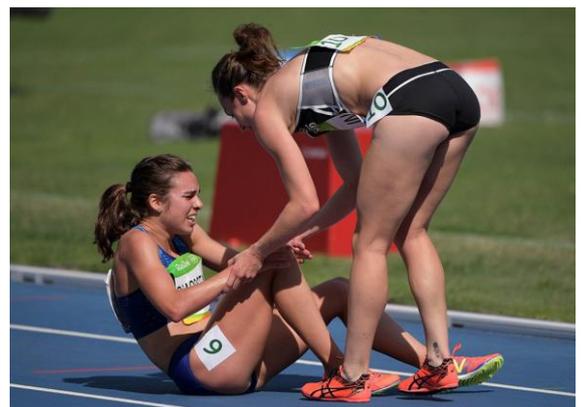
「立って。一緒にゴールに行こう。」

ニッキー選手は、その言葉に励まされて立ち上がり、2人は再び走り出しました。しかし、途中でアビー選手のひざのけがが悪化し、走れなくなってしまいます。すると今度は、ニッキー選手がアビー選手に声を掛けました。

「あなたが私を助けてくれた。今度は私があなたを支える番。」

2人は、どちらが勝つとか、何位になるとか、そういうことではなく、お互いに助け合いながら、最後まで走り切りました。その姿に、世界中の人が胸を打たれました。

彼女たちは決勝には進めませんでした。オリンピック委員会はこの2人に「フェアプレー賞」を贈りました。金メダルではありませんが、それ以上に価値のある賞です。



皆さんの体育祭にも同じような感動がありました。

勝ちたいという気持ちはとても大切です。だからこそ人は本気になれます。でも、それ以上に大切なのは、最後まで全力でやり抜くこと、仲間を思いやること、誰かを応援すること…そういった行動の根底にある「心」が、皆さんの力を育て、まわりの人の心を動かします。

たとえ転んでも、うまくいなくても、自分にできることを精一杯やりきる。そのとき、「勝利」を超えた「さわやかな風」が、きっと皆さんの中に吹くはずですよ。

皆さんには、これからもさわやかな風を巻き起こす機会がたくさんあるでしょう。どうか、その風を大切に、頑張ってください。

“感謝”が次の一歩につながる

もう一つの話は、昨年7月23日、第106回全国高校野球選手権・宮城大会の決勝戦のことです。前年の全国準優勝校・仙台育英高校と聖和学園高校の対戦でした。仙台育英高校は、2年前に全国優勝、1年前に準優勝という、夏の甲子園において2年連続で結果を残した有名校です。しかし、この宮城大会の決勝戦で、仙台育英高校は負けてしまったのです。全国大会に行くことすらできませんでした。

試合後、『グッドルーザー（良き敗者）であれ』という話をしてきた仙台育英高校の須江航監督は、「勝った聖和学園高校をしっかり讃えることができた選手たちの姿に、うれしさを感じる」と話しました。

そして、選手たちにこう伝えました。

「あなたたちを支えてくれて、育ててくれた人に対して、人生の今日は大切なタイミングだから、感謝の気持ちを伝えよう。優勝したときとか、勝ったときじゃない、今日負けたときに連絡することが大事！ 勝ったときに勝ちましたという報告よりも、負けたときに感謝をちゃんと伝える。それは、絶対に欠かしてはいけない。それは、ここで学んだことだし、これからの人生でとても大切にしてほしいことだから、今日のこの後の時間を本当に有意義に使ってほしい。」



「負けたときこそ、感謝を伝える絶好のタイミング」という話でした。皆さんは、体育祭を支えてくれた人に感謝できたでしょうか。皆さんを一番近くで支えてくれたのは先生方だと思います。中には当日の朝4時に起きて学校に向かった先生もいました。また、当日の朝は、春日小応援団の皆さんが朝早くから会場準備をしてくださいました。そして、皆さんが閉会式で喜んだり悔しがったりしているときに、片付けを始めていました。そして、応援に来てくださった家族もいましたね。そうした方々のおかげで、皆さんは主役として活躍することができたのです。それを「当たり前」とせず、感謝することを忘れないようにしましょう。

須江監督は、負けた仙台育英高校の3年生に向かって「敗者復活をするんです。」と話しました。「人生はこれから。だから終わりは始まりなので、今日どう感じて今日からどうするかに目を向けてほしい。今日という日を大事にしなければいけない。」

そして、その日から10か月後のおととい5月25日、仙台育成高校は宮城大会の決勝戦で聖和学園高校に勝って優勝を果たしました。

さて、皆さんは、体育祭を通して何を感じ、今日からどのような行動を始めようとしていますか。

私は、まず「学級というチーム」をもう一度見直し、よりよいチームづくりに取り組んでほしいと思っています。今日からまた、新しいスタートを切りましょう。

生徒指導の眼

「がんばれ」「すごい」「ドンマイ!」と、大きな声で温かいメッセージを伝え合った体育祭。保護者の皆様の声援も加わってグラウンドが熱く盛り上がりました。

今年度は、体育祭までに、6年生によるあいさつ運動、「名前を覚えようウィーク」の実施、かけはし班種目の練習等の活動を通して、主体的にかかわる行動力を育て、仲間づくりをすることに取り組んできました。体育祭が、仲間とのつながりを感じられる一日となったので、それをより強く大きなものにしたいと考えています。



＊ ＊ いじめ見逃しゼロ強調月間 ＊ ＊ あいさつ、言葉から ＊ ＊ ＊

昨年度の学級意欲満足度アンケートでは、「意見を述べること」「困っている人に声を掛けること」「遊びに誘うこと」を苦手を感じる子どもが多く、かわりに自信がない様子が伺われました。言葉遣いに気を付けて話すこと、お互いの意見をしっかり聞き、分かり合うことを大事にした環境作りをしていきます。

◇6・7月の生活目標◇ **目を見て 明るい声で あいさつをしよう**
あたたかいメッセージを 伝え合おう

① 目でつながる 声でつながる ～相手と仲良くなろうとする気持ちで～

児童毎朝、児童玄関前で子どもたちを迎えていると、明るい声であいさつをする子どもが増えていくのを感じます。相手の目を見ることも、自然にできるようになるように目標をもって、取り組み続けたいです。誰とでも声を掛け合う力が育ってほしいと願っています。

② あたたかいメッセージでつながる

学習が充実する6月。少し困難な課題にも、仲間と話し合い、理解し合い、あきらめずに乗り越えることを学ぶ場面が増えます。

あたたかいメッセージは、言葉以外からも強く相手に届くものです。失敗しても大丈夫、意見を言ったら聞いてもらえる等、自信をもって活動できるよう支援していきます。

ソーシャルスキル教育(全校 SSE)ので伸ばしたい力

＜言葉以外のあたたかいメッセージ＞

- ① 相手に近づく
- ② 相手の目を見る。
- ③ 聞こえる声で言う
- ④ 笑顔、拍手、ハイタッチ など

春日小では年間を通して、ソーシャルスキル教育(全校 SSE)に取り組んでいます。生活目標や行事と関連させて、互いを大切にする態度を身に付けています。



言葉遣いをチェック！学活「ふわふわ言葉とチクチク言葉」

全学級で、「ふわふわ言葉とチクチク言葉」について話し合い、うれしくなる言葉を交流したり、人を悲しませ傷つける言葉がトラブルを招いていないか見直したりしていきます。

チクチク言葉は、相手だけでなく自分の心やその成長も傷つけます。「ふざけただけ」と人の悲しみや不快感、いじめに気付かなくならないように、感覚を磨いていきたいと思えます。学校と家庭で、一緒に取り組んでいきましょう。

＊教育相談月間です。お子さんのことで心配なことがありましたら、お気軽にお声がけ下さい。



たいよう 学年（1年生）

＜学年目標＞ **だいすき いっぱい！**
わくわく チャレンジ たいようっこ

4月9日に、94名の元気な1年生が入学しました。学年の愛称は「たいよう」です。「太陽のように明るく元気に、そして温かい心をもった子になってほしい。」「一人一人が周りを照らして大きな太陽のような学年になってほしい。」「太陽のように明るく輝いてほしい。」という願いが込められています。皆さん、応援よろしくお祈りします。



初めてのことで、わくわく・チャレンジがいっぱいの毎日です。給食当番や清掃など、優しく教えてもらいました。

体育祭では、応援や競技に一生懸命取り組みました。大勢での体育祭。50m走、玉入れ、応援などに全力でがんばる姿に、大きな声援と拍手をいただきました。

全校のみんなが心をこめて計画してくれた「1年生を迎える会」では、お兄さんお姉さんと仲良く活動ができて、大喜びでした。



ひかり学年（6年生）

最高学年になり、頼もしい姿がたくさん見られます。学校のリーダーとしての自覚が芽生え、「1年生を迎える会」や「体育祭」などの行事では下学年に優しく声をかけ、リードしています。日々の学習、行事を通して、様々なことに挑戦し、学びの多い最高の1年間にしていきます！！

「あいさつ運動」で、全校のあいさつを盛り上げました！！

ひとひとりが責任をもち
か学年に優しく
いーダーとして
自分から行動しよう！
R7年度 ひかり学年

かけはし班活動では、
下学年のリーダーとして
活躍しています！！

「1年生を迎える会」では、
校内の飾り付けや運営を行いました！大成功でした！！

体育祭では、自分の役割を果たし、全校を盛り上げました。

